

Y-P アセスメント

活用リーフレット

子ども達に年齢相応の社会的スキルを習得させる「子どもの社会的スキル横浜プログラム」は、スキルの育成状況を把握する「Y-P アセスメント」と、スキルを高める「指導プログラム」(*冊子)の二つからできています。このリーフレットでは、「Y-P アセスメント」について説明します。

Y-P アセスメントとは…

「Y-P アセスメント」は、児童生徒むけアンケートと教師むけチェックシートの二つを合わせて支援検討会を行うものです。

Y-P アセスメント

児童生徒むけ「学校生活についてのアンケート」

このアンケートは「自分自身に関すること」と「自分の学校生活に関すること」の2つで構成されています。

教師むけ「学級風土チェックシート」

3種類のチェック方法があります。

- ・簡易版
- ・オリジナル版
- ・Zuzie 版 (アプリケーション)

支援検討会

アンケートやチェックの結果について複数の教師で話し合い、学級や児童生徒に関する多面的で総合的な理解を深めることと、教師の自己理解を深めること、そして支援の方針を決めることが、支援検討会の目的です。主に検討するのは、次の内容です。

- ・学級や個人が直面する課題
- ・適切な指導プログラムの選択等の支援策
- ・課題解決に向けたチーム支援の方向性

tips

支援検討会での大事なポイントは「ズレ」です。

- ・児童生徒と教師の感じ方のズレ
- ・複数の教師の間にあるとらえ方のズレ

「ズレ」があるのは当然であり、「ズレ」を手がかりに話し合い、児童生徒理解や教師の自己理解を多面的、総合的にし、深めていくことができます。

実践へ

さまざまな支援を実践します

- ・指導プログラムの実践
- ・児童生徒の実態に応じた多様な支援
- ・チーム支援体制の構築

■ *「指導プログラム」冊子



児童生徒むけ 学校生活についてのアンケートの活用

1. アンケートの実施方法

「学校生活についてのアンケート」は、児童生徒が自分自身について回答するアンケートです。アンケートは10～15分程度で行うことを目安としますが、とりわけ時間の制限はありません。大きな行事の前後等を避け、学校生活が落ち着いている時期に落ち着いた環境で行います。

低学年では、教師が質問項目を読み上げながら行うとよいでしょう。友達と話し合ったりせず、自分が感じたままに回答するよう、また、無回答がなるべくないように励ましてください。

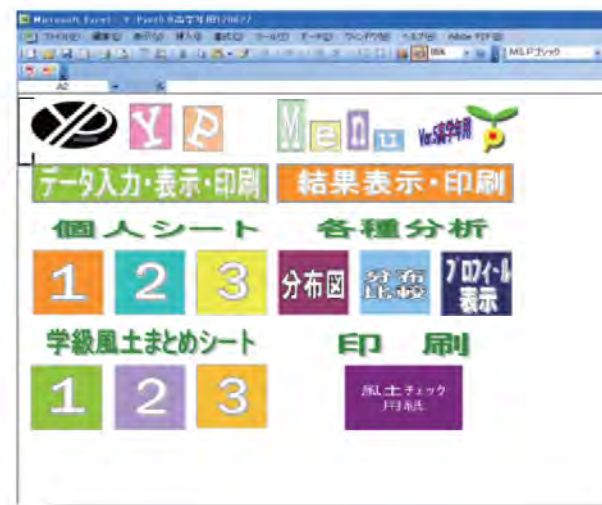
児童生徒が回答を記入したアンケート用紙は回収し、入力、集計、読み取りをしてください。結果は、児童生徒や保護者に面談等でフィードバックすることができますが、児童生徒が傷つくことのないよう伝え方には充分留意してください。

2. 入力と自動集計

横浜市教育委員会のホームページから「Y-P アセスメントシート・エクセル版」をダウンロードします。その中にある「アンケートデータ入力シート」に、「学校生活についてのアンケート」の結果（数値）を入力すると自動的に集計結果がでます。

■ Y-P アセスメントシート（トップメニュー）

- ① トップメニュー画面「個人シート」下の数字をクリックするとアンケート結果を入力する「アンケートデータ入力シート」が開きます。3回分の入力が可能です。
- ② 「分布図（学級分布図）」「分布比較」「プロフィール表示（個人プロフィール）」をクリックすると、それぞれの結果が自動的に表示されます。

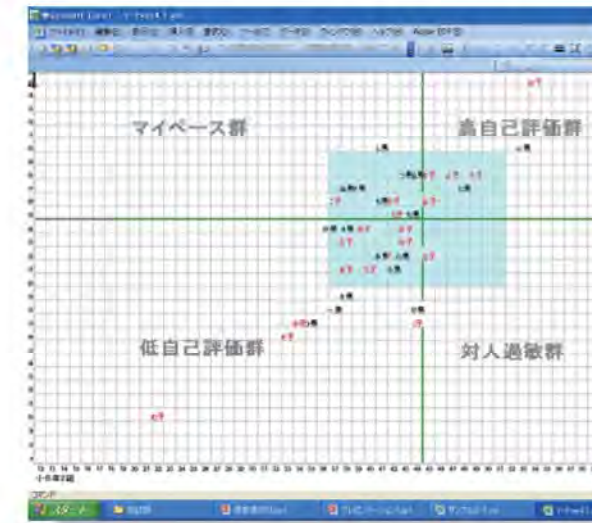


■ アンケートデータ入力シート

- ① 学年ごとに結果の処理が異なるので、必ず学年・組を入力します。
- ② 氏名は、既成のファイルから貼り付け可能です。「姓のみ」の入力の方が、分布図の表示が読み取りやすくなります。
- ③ 性別欄にプルダウンで男女を記入します。学級分布図に男女が色別表示されます。



3. 支援検討会での活用



■ 学級分布図

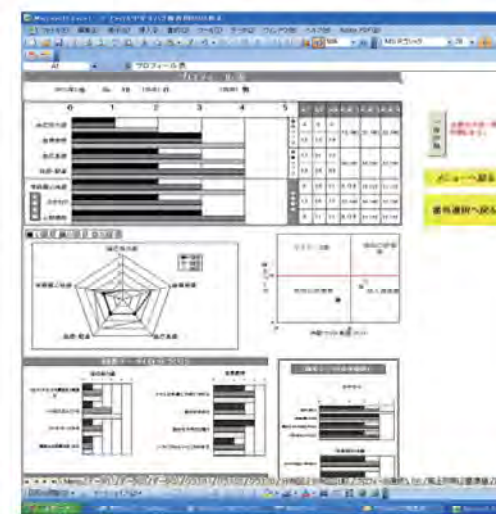
「自分自身に関すること」と「学校のあなたの様子に関すること」の2軸の空間につくられる4つの象限に児童生徒が配置されます。

頁左端 column の「育成状況モデル」を参照ください。

集計結果が3つの図表、「学級分布図」「学級分布比較図」「個人プロフィール」で示されます。これらの図表から児童生徒の社会的スキルの傾向をつかみ、課題を把握し、教師の児童生徒理解を深めます。

■ 個人プロフィール

入力したアンケートの集計から一人ひとりの結果だけを表示します。3回分の結果を比較することができます。



■ 支援検討会のためのワークシート紙面

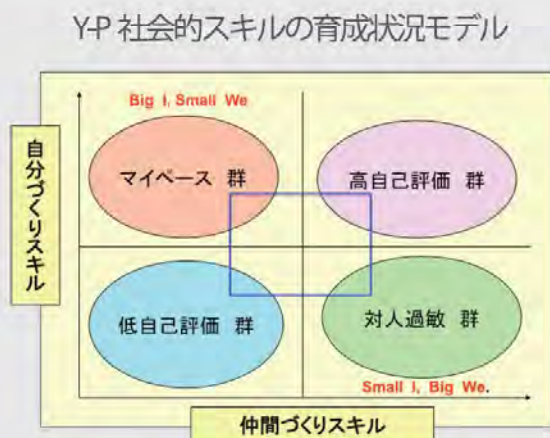
ワークシートに記入していくと、支援検討会が効率的に進められます。

column

育成状況モデルとは

子どもたちの社会的スキルの育成状況モデルは、右の図のようになります。

平均の軸で分けられた4つの象限は、それぞれにプロットされた子どもたちの特徴から、高自己評価群、対人過敏群、マイペース群、低自己評価群と名づけられています。



■ 学校生活についてのアンケート紙面

教師むけ 学級風土チェックシートの活用

「学級風土チェックシート」は、教師が学級全体の社会的スキル育成状況をチェックするツールです。3つのアプローチ「自分づくり」、「仲間づくり」、「集団づくり」からチェックします。各アプローチにはそれぞれ2つの観点「公正ー寛容(自分づくり)」「自己表現ー配慮(仲間づくり)」「課題遂行ー合意形成(集団づくり)」があります。「18のスキル」が各観点毎に分類されています。詳しくは、「学級風土チェックシート簡易版」の表(下図)をご覧ください。

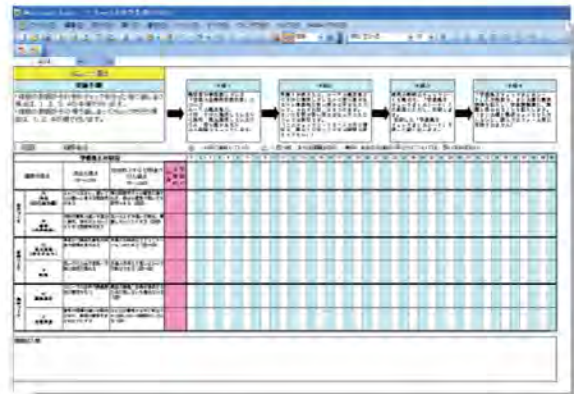
1. 活用方法

- ① 学級風土チェックは、ひとつの学級について複数の教師で行う支援検討会のためのものです。児童生徒むけ「学校生活についてのアンケート」の結果と合わせて検討すると、より効果的です。
- ② 6つの観点から子どもの社会的スキルの育成状況をチェックします。さらに「18のスキル」から、向上させたいスキルを選び、指導プログラムの選択や多様な支援策の決定を行います。
- ③ 複数の教師で話し合うことにより、学級や子どもの多面的・総合的理解、教師の自己理解を深めることができ、チーム支援体制の構築に役立ちます。

2. 三つの学級風土チェックシートを使い分ける

「学級風土チェックシート」には、「簡易版」「オリジナル版」「Zuzie 版」の3種類があります。目的に応じて使い分けてください。

■ 学級風土チェックシート・オリジナル版



■ 学級風土チェックシート・簡易版

簡易版は、短時間で実施することができ、繰り返し行うのに適しています。複数の教師が個々に「+・-」を記入したあと、話し合います。シートは、ホームページからダウンロードできます。

学級風土チェックシート簡易版

- ① 学級(集団)について、6つの観点の中から最も優れている点に+、最も向上させたい点に-をつけます
 - ② -をつけた観点のスキルの中から、最も向上させたいスキルに-をつけます
- ※①も②も複数記入可(3分)

年 月 日実施 学年 組 作成者:

		6つの観点とその具体	+・-	18のスキル	+・-
自分づくり	公正	よいことはよい、悪いことは悪いと言える雰囲気がある 場の雰囲気や人の意見に流されず、自分の意見や感じ方を表明できる		①自分の意見をもつ ②自分なりの見方や考え方もつ	
	寛容	失敗や意見の違いを温かく認め、包み込んでいこうとする雰囲気がある 互いのよさや違いを認め、尊重していこうとする		③自他のよさを見いだす ④自他のがちがいを認める	
仲間づくり	自己表現	率直かつ適切な意志の伝達や感情交流がある 友達との明快なコミュニケーションがとれる		⑤はっきり伝える ⑥上手に質問をする ⑦さっぱり断る ⑧仲間に加わる ⑨仲間に誘う ⑩さわやかにあいさつする ⑪自己紹介をする	
	配慮	思いやりのある言動・行動が自然に現れる 友達の気持ちを推しはかかって行動ができる		⑫やさしく頼む ⑬気持ちに共感する ⑭あたたかい言葉をかける ⑮しっかり話を聴く ⑯きちんと謝る	
集団づくり	課題遂行	グループの目的や課題解決に意欲をもつ 集団の課題・目標を達成するために話し合いを進めている		⑰問題や課題の解決策をみんなで考える	
	合意形成	意見や感情の違いを認めながら、集団の意見をまとめようとする みんなの意見を上手に取り入れて話し合いの調整をしている		⑱互いの感情や意見の違いを認めながら調整しようとする	

オリジナル版は、学年が始まって一ヶ月程してから用います。手順は表示画面の上部に書かれています。

複数の教師が別々に行い、結果をまとめシートに記入して検討します。

教師それぞれの見方に「ズレ」が発生しますが、そのズレに着目してください。学年の指導の方向性を検討する話し合いや、子ども観を揃える話し合いに効果的です。「Y-P アセスメントシート(エクセル版)」を利用し、「風土チェックシート」の印刷や「まとめシート」の入力ができます。

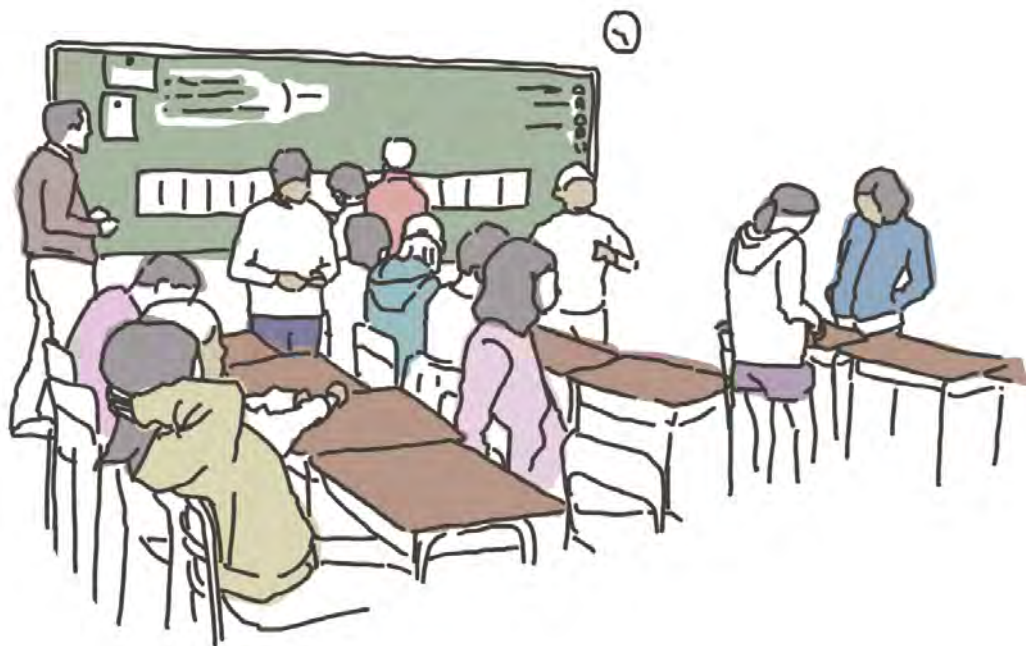
オリジナル版と同様のことを視覚的に行うのが、裏面に掲載した「Zuzie 版」です。また、一人ひとりについてのチェックはできませんが、オリジナル版の代わりに「簡易版」を使って、同じ時期に短時間で学級風土チェックをする方法もあります。



Y-P アセスメントの活用：年間計画の例

Y-P アセスメントは、時期に応じた方法で、年に3～4回行うと効果的です。

- ① 学年始め前に、「学級風土チェック・簡易版」で学級経営の方向性を決めます。
- ② 5～6月と10～12月には、「学校生活についてのアンケート」と「学級風土チェック」を合わせて活用するとよいでしょう。
- ③ 2月には、「学級風土チェック」で、学級経営の総括と個人の状況の引き継ぎを行います。「学校生活へのアンケート」を合わせれば、より精度が高まります。



発行 平成 25(2013) 年 横浜市教育委員会

© 2013 City of Yokohama. All rights reserved.

leaflet design : yuki oouchi, you aono, takeshi sunaga lab, tama art university